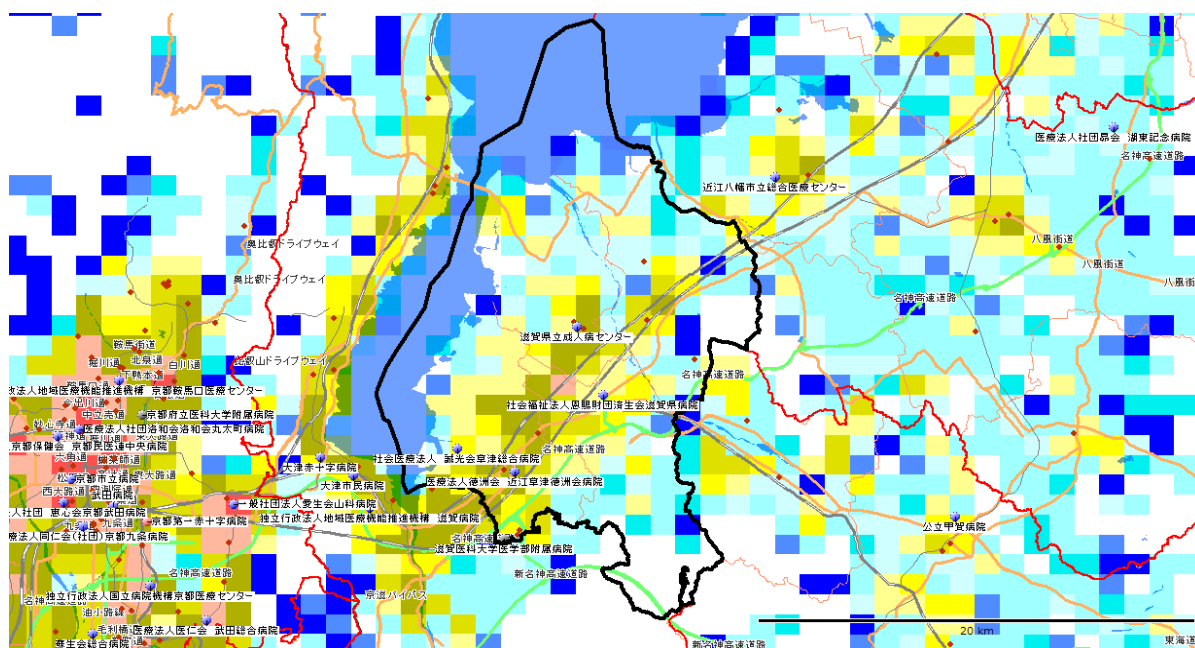


25-2. こなん 湖南医療圏

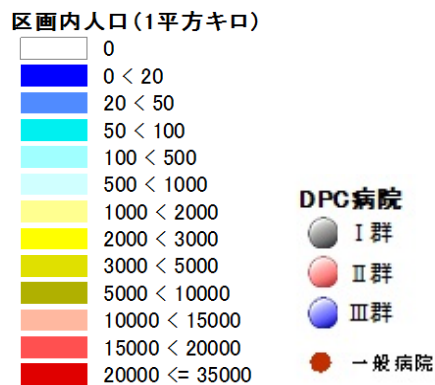
構成市区町村 [草津市](#) [守山市](#) [栗東市](#) [野洲市](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(湖南医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 湖南(草津市)は、総人口約334千人(2015年)、面積256km²、人口密度は1,302人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 湖南の総人口は2025年に350千人へと増加し(2015年比+5%)、2040年に349千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の29千人が、2025年にかけて46千人へと増加し(2015年比+59%)、2040年には50千人へと増加する(2025年比+9%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 湖南の一人当たり医療費(国保)は362千円(偏差値51)、介護給付費は233千円(偏差値44)であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費は低い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 湖南の一人当たり急性期医療密度指数は1.07、一人当たり慢性期医療密度指数は0.52で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が47(病院医師数47、診療所医師数50)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は48と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は50で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は50と全国平均レベルである。湖南には、年間全身麻酔件数が1000例以上の済生会滋賀県病院(Ⅲ群・救命)、滋賀県立総合病院(Ⅲ群)、草津総合病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は44と療養病床数は少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値47とやや少なく、回復期病床数は偏差値49と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は41で精神病床数は少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は52で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 湖南の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2,905人(75歳以上1,000人当たりの偏差値48)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が1,898床(偏差値54)、高齢者住宅等が1,007床(偏差値45)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、2,281人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設45、特別養護老人ホーム57、介護療養型医療施設51、有料老人ホーム38、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム46、サ高住61である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値54とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値57と多い。介護職員(在宅)の合計は、382人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-68%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(湖南医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

湖南医療圏の総人口は、2005年301,337人が、2015年に333,744人と11%増加し、2025年の人口が349,688人と予測され、2005年→2025年の間に16%程度の増加が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に24%増加し、2015年から2025年にかけて13%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

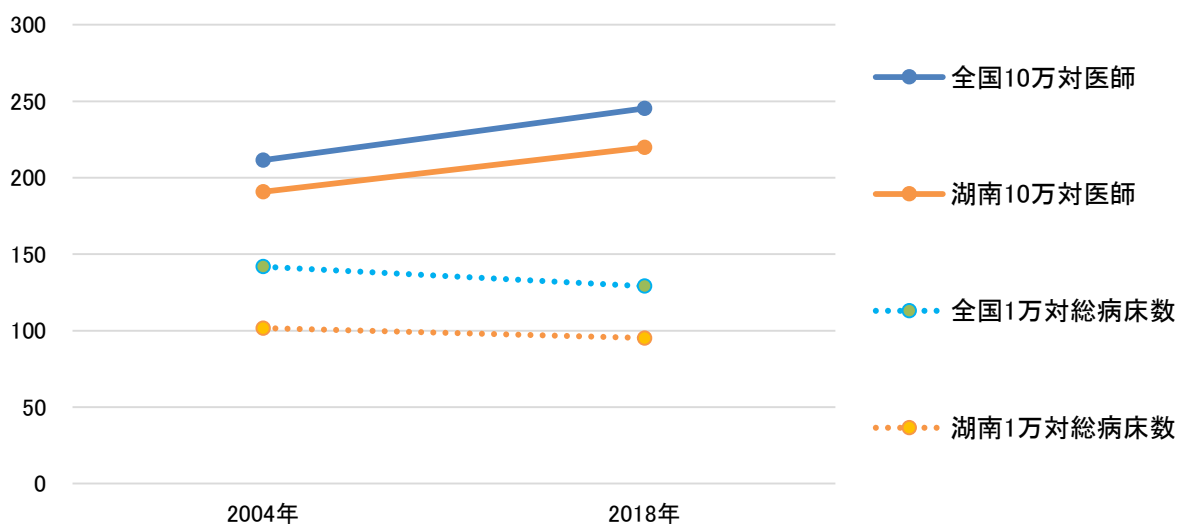
2004年の病院数が15(人口10万人当たり5病院(全国平均7.1)偏差値44)であったが、2018年に13(人口10万人当たり3.9病院(全国平均6.6)偏差値43)となり、14年間で2病院が減少した。

2004年の診療所数が226(人口10万人当たり75診療所(全国平均76)偏差値50)であったが、2018年に280(人口10万人当たり84診療所(全国平均80)偏差値52)と、54診療所が増加した。

2004年の総病床数が3,065床(人口1万人当たり102(全国平均142)偏差値43)であったが、2018年に3,176床(人口1万人当たり95(全国平均129)偏差値44)と、111床の増加、率にして4%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。

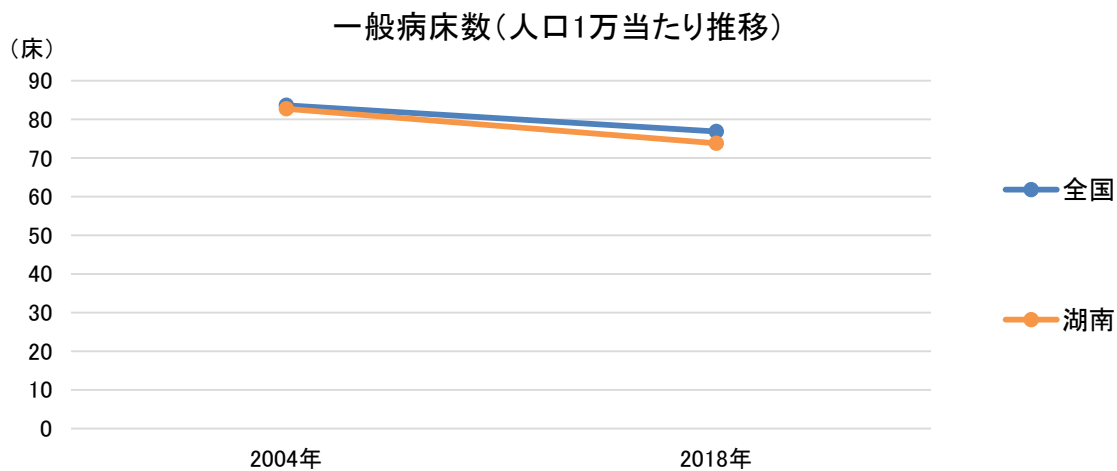
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が575人(人口10万人当たり191人(全国平均212人)偏差値48)であったが、2018年に734人(人口10万人当たり220人(全国平均245人)偏差値47)と、159人の増加、率にして28%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



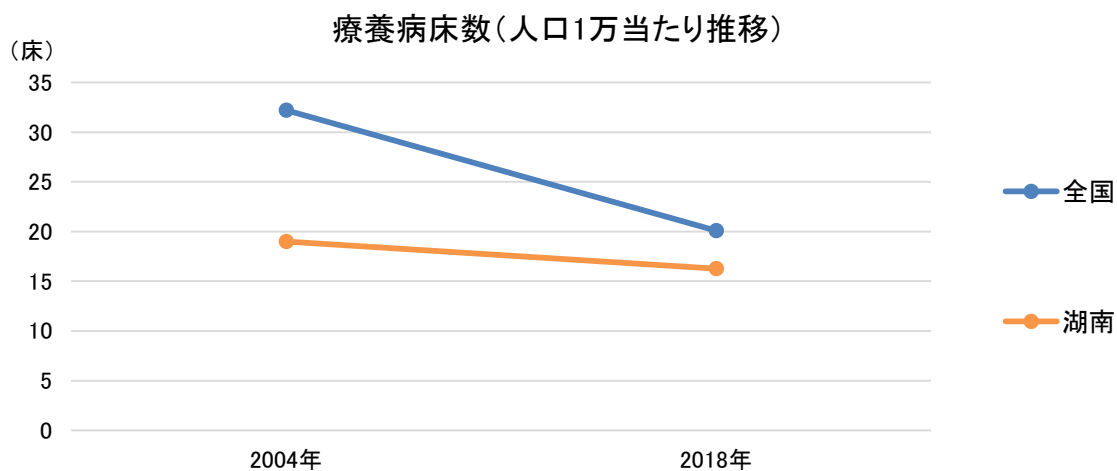
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2,493床(人口1万人当たり83(全国平均84)偏差値50)であったが、2018年に2,464床(人口1万人当たり74(全国平均77)偏差値49)と、29床の減少、率にして1%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



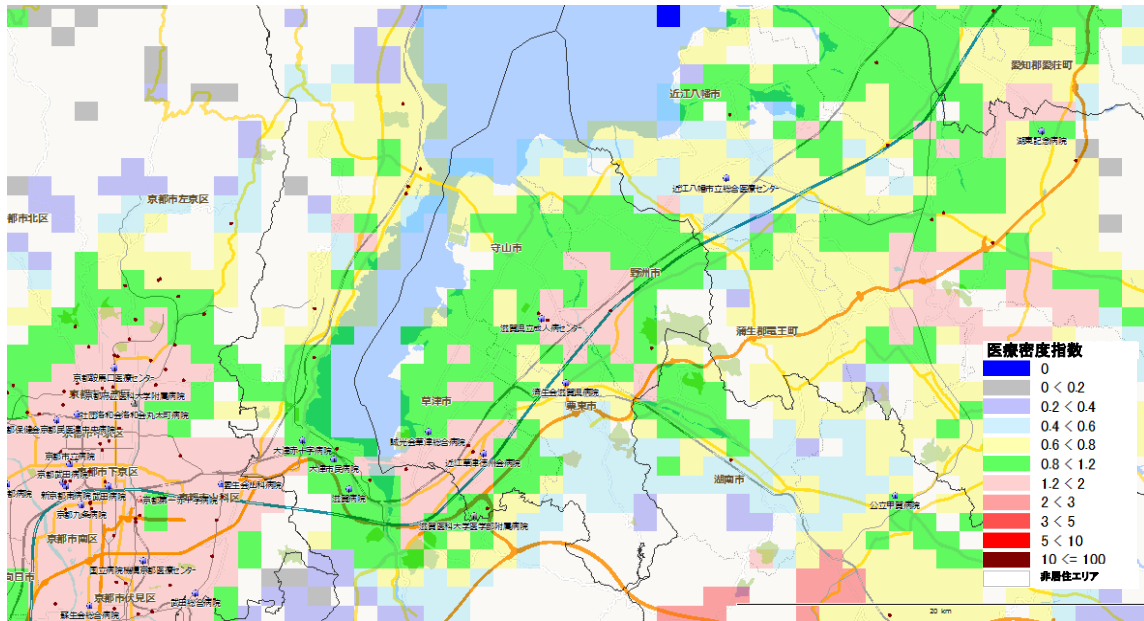
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が348床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均32)偏差値42)であったが、2018年に467床(75歳以上1,000人当たり16(全国平均20)偏差値47)と、119床の増加、率にして34%の増加(全国平均12%の減少)が見られた。



(湖南医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表25-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表25-2-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

